

志

上
所
以

魚山殿

日
与
之
又
之
也
况
者
イ

詩合

題

河月

不逢志

作者

尤

野麻

絶志

山紅葉

女房

後一行右大臣藤原朝片

右大臣

正三位行權大納言藤原朝片通成

權大納言藤原通成

芥園白

後一位臣藤原朝片

兵部卿藤原朝片隆親

正三位行中納言藤原朝片隆親

行中納言藤原朝片長雅

正三位行權中納言藤原朝片長雅



泰議正三位行表源行長正三位行表源行長次平

右近行中將右近兼權中將右近正四位下行中將右近兼權中將右近正四位下具氏

真觀 沙弥

中納言

周白 右 周白後一位藤原朝臣

前太政大臣 後一位藤原朝臣云

前左大臣 後一位藤原朝臣 實

前大納言右近兼權中將右近正三位藤原朝臣實季

中宮左大臣源朝臣雅忠 正三位行權大臣云云中宮左大臣源朝臣

融覺 沙弥

中納言藤原朝臣為氏 正三位行中納言藤原朝臣為氏

侍從右近朝臣行家 正三位行侍從兼安流權守右近朝臣行家

右兵衛督藤原朝臣為教 正三位行右兵衛督藤原朝臣為教

左近中將右近朝臣云雄 正三位行左近中將右近朝臣云雄

講師

右 右近兼權中將源朝臣具氏

右 侍從藤原朝臣行家

讀師

右 右大臣

右 前太政大臣

判者

衆議判

一番

河月

九

持

右大臣

ゆく末のち終もど成る大升川は此秋と月日のまじり

六

為氏卿

かきうはと忍ぶあとも大升川は此秋と月日のまじり

九方海師續下之信承唐例方人先可

録吟之由被作仍發勢録之次太奇

海師續下之右方人録吟之接各可下

是非之由有海師案

右方申九方下句同右方又上之ニ句此珠

右方申被右方同神也勅先親一番女首

同不付優九方勝右方秀送之付海

物鏡 右方を指すればむじは例可為左
勝れ

又申のけりしとあるうち此の祝言の上
初句得る月之是有便宜之御あり古語
兆無例争可負哉

九方言難^シか^クつ^ク子^ハ為^ス元^ク祝兆月
之先奉背^ル之^ハ如^ク意^ハ此^ノ物^ヲ祝^ス言^ハ難^シ
然^レ由^テ右^ノ方^ニ頻^ニ依^リ交^シ申^テ被^テ定^ム物^ナ
後鳥羽院御時方合後茂卿判者^ナに^付
は方合の例として一^ハ右^ノ方^ハ九^ノ勝^ト
右^ノ方^ニ合^ス申^テ被^テ越^ス已^ニ背^リ被^テ判^ス之^レ
右^ノ方^ニ合^ス申^テ被^テ越^ス已^ニ背^リ被^テ判^ス之^レ

左右講師讀申^テ平^ニ各^ノ詠^ハ吟^シ之^レ後^ニ可^ク
左^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ
之^レ外^ニ自^ラ方^ニ被^テ下^リ勝^ル方^ニ被^テ下^リ之^レ九^ノ方^ニ被^テ下^リ
左^ノ方^ニ必^ズ被^テ下^リ勝^ル方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ
乃^チ大^ニ升^リ被^テ定^ム負^ル左^ノ右^ノ方^ニ被^テ下^リ可^ク為^ス物^ナ
由^テ定^ム申^ス

二番

九 勝

前同白

此^ノ代^ニは^シ月^ノ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ

七

同白

此^ノ代^ニは^シ月^ノ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ
右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ右^ノ方^ニ被^テ下^リ

右方一葉集一葉のまゝめきしるしに
えにあらはれどいふ方此三句はあてかゆ
じと被作出いせしきこと以て作は
三位中くゆの字取て必て碓同しと
といふりきしといふまは三句よわ
まゝ但一葉集より古来取る飛鳥集
由有 初定太岡被申云今見左方忠長
之趣定免右方作者之難免申請可
付勝字以外同白被申之於予傳方者皆
不可論之仕君之勤節誠兆可申子細
早以左可力勝云
右方と碓同また手紙に碓同存古字

されれぬらばむ置れし由被作左方
左方誠意指籍心有餘情仍以左方勝

三番

丸 勝

持大納言
通茂卿

忠長のきまつたは信むらりてふ代はすまら秋葉の月
吉 新太政大臣

奔川井きよれよききして月をみねむさきれいは浪
右方を申有之間左方申云月をこれと
いふれゆるとあゆらんちよあかしく秋の
長の月にはよらうにこころ傳れとて何可勝
く由やしく
左方大井川いそなむちり傳りし

まじりておれしるすれたはさ月とみまきるす
乃いれこれ煉ふれむけりけりしきりし
しをいしてしたるのあのみさるし何なりこ
とゆりてきこゆらにふ代ののすすこり
ありとてたかたはた可為勝く由定申

四番

奉詔資平

左

資平卿

ふり好まむとわの妹のなより月とやんをんをれは集

右

勝

中より大又飛忠
飛忠卿

奔河若ん浪れ志しむすふ代志すころ秋の夜は月
左より西園寺入道若太政大臣 家月十首
し名取河風情ありししやと侍後三

位申と其言を合めしはしゆりし
尤方ト云古言とよみれなる乃左より
お新しめはししにや左より下旬優ま
う物終枝月十首奪さるる公宴し
とゆらあといはりあつしとやきしし
とゆらしゆりなは可為道く清き
く由有沙法以右り勝
古言あしむを煉ふなりよりふと年く由
やしふ代ののなみとてたのたよりし
可為勝く由各やし

五番

左

持

持中御云七紙
長雅卿

またふらから其方よりきりぬめしむ成んて月見はかき

七

資季卿

大井川のまじりたる月もかくと礼と海のくまのこいもあふ
たす測のみよりと志はつてはささりりかた
もろはしつともとたさすりし月ひきり
もあふりたるとこふれはてし月のひり
よわふりたるをこいれりともあふりしり
ふたす建仁と比す今よ何月の氷と
糸懸りて今よりなるもりしりたさ申物
アアアアア此すやアアアはアアアアアア
たのゆし程し竹ののちを海もまわりて
たのゆし物しアアアアアアアアア礼とよ

建仁元年八月十五夜標三可合の月似氷後
後か大井川に流るるゆふなみのとよとふ
らそらあは月まふりけれ

其表不覚悟作りしよりいふ礼しり物ある
新勅撰光明寺ち入る新撰政とたす
とり紫系のおたろくよよとつ个月的こえ
わするれたししり下句物事りか
不申出物しり古より未随見及可降しり由
後日被信りりる載之者也

たさすた乃未りすしおほつたはたさす
上りたさたさた下句まらりり
しり可為おらりりりりり

六番

九 勝

女房

たをせし月いひいどあほくはかきそあだらそきん

右

公雄卿

はた子細あうりゆりくれ

ちりりくくるこさうにこれまうりげんを

いつかあとおもひしてはくたに傳承く由り之

右 龍丸方りうけきりあとしといひく

方の幼れ也字ハ素子れしとさきといひ

とつるはゆいといえにほくおさうく

とつるはゆいといえにほくおさうく

陳トアますしゆくと年代ハいふねおれ

八番

九 勝

沙弥言の親

初能川舟てよし流れよとゆい

右

為教卿

美代と申あさうとたりとやうく

大方申あさうとたりとやうく

月らいつれはつとあさうとやうく

葉トよめいふけいといひるよる清

とまねとこけつしの影野と山をいばり
しを賞覧まつお板よおほまいたる
ゆいしと大あまふ月れく清く川ま
らうた影い十三夜を名よたうれ
るまうつとてあ方せりり月てり
るまうつとてあ方せりり月てり

十番

九 持

兵アツ隆親
隆親卿

凡つるまねとけつしの影野と山をいばり
しを賞覧まつお板よおほまいたる
ゆいしと大あまふ月れく清く川ま
らうた影い十三夜を名よたうれ
るまうつとてあ方せりり月てり

大

侍松月良
行家卿

大井川すゑの桂れけりてやけい月七をまほさん
大申九あいよまは月を白とまほさん
上句すゑの桂れけりてやけい月七をまほさん

たすこははととめのとなくわと
中いりて傳しとを大井の志をい
らあつしととてまほさん
勝とさういふ家

十一番 野麻

九 持

通成卿

ねいふる飛凡とつむきたあおまほさん
為氏卿

五

又うけはれとのこまふたあぬ坊ゆ
あ首あねれもさうまほさん
のうせむ涼やとた方りせい大まほさん
まきあまほさん

志て不_レ有勝者_レ由_レ中_レ之_レ仍_レ以_レ力_レ拈_レし
た_レた_レお_レち_レし_レた_レゆ_レを_レ持_レ方_レた_レし_レを_レ拈_レさ
ふ_レれ_レ礼_レ傳_レり_レき_レお_レん_レこ_レた_レく_レ勢_レハ_レす_レこ_レし
蒸_レ涼_レも_レ傳_レ斗_レる

十二番

た 傳

丹后

礼_レ禮_レ也_レや_レ傳_レり_レて_レん_レ志_レの_レ山_レ木_レ葉_レ乃_レ山_レ麻_レの_レ以_レた_レる

た

融_レ覺

お_レいて_レも_レむ_レさ_レる_レた_レ葉_レの_レり_レい_レり_レは_レい_レく_レ杖_レた_レ禮_レ以_レ掉_レ麻_レの_レ也
た_レし_レ云_レ標_レ野_レ行_レ尔_レ形_レ行_レん_レ籠_レ及_レ詞_レ難_レ及_レ之_レ
由_レ海_レを_レし_レく_レた_レ之_レ考_レて_レも_レむ_レ暖_レ野_レ作
者_レ非_レ人_レ字_レ射_レ以_レ幽_レ玄_レ之_レ由_レす_レこ_レた_レり_レて_レた

た_レた_レし_レ礼_レ吟_レし_レ傳_レし_レ禮_レり_レ

か_レら_レ山_レり_レり_レ北_レ下_レ葉_レゆ_レ之_レわ_レけて_レい_レく_レき_レい
た_レ禮_レ也_レ一_レれ_レ点_レと_レし_レの_レ後_レ京_レ極_レ拈_レ改
礼_レ新_レ勅_レ撰_レう_レれ_レ之_レ由_レを_レ傳_レ出_レ志_レる_レは_レど_レく_レ北
陳_レ方_レに_レ礼_レく_レて_レた_レは_レや_レ勝_レゆ_レア_レと_レも_レた_レ日
下_レ傳_レし

た_レ老_レ老_レ乃_レ下_レ句_レ古_レ之_レの_レ上_レた_レ蒲_レ生_レ野_レ拈_レ
蒲_レ瓦乃_レお_レも_レけ_レ志_レと_レき_レら_レう_レひ_レて_レ似_レを_レ比_レす_レれ
仍_レを_レ以_レた_レ力_レ拈

十三番

た

真_レ觀

鬼_レ念_レ乃_レの_レ下_レま_レん_レよ_レ拈_レる_レ之_レの_レ麻_レの_レま_レと_レ念_レん

右 傳

関白

まむ物内や乃またの秋凡さうはちさうしきまじりて
 大寺下句續後撰の秋 かしらてむの大
 とは志くや秋葉よりあくや志はつまをこり
 んけしりよおれしあうし 傳中何し申さ
 其親しき麻乃つまはこふをいふは
 中しきよ句いあうぬさゆよりなりて
 傳ははおれし方とをふしを傳しを大
 方と下句同れ傳し使ともを蔵乃小野
 傳ちり寸傳しやあはれハ万葉才七はし
 辭喻三方にて横三方ちとにすあはれ傳
 伝情述志て不方よしら并く傳もよこる

古の野ありやを念共すたき古來の
 或たり少てつこは被作おて入道 民戸
 いたは後りしあ初すたうやと傳あり
 しとと禁不あり由申く玉伝秘す
 之故軟野く首無子被染しりて
 表勝負雅を定やとてし傳し ぶさ
 傳は三位信徳玉く野谷なり能因
 奇物よりんえくたうし一之回一
 了して以右可為傳く由ら定事
 たりははやのて此野、首無の多るは
 ありて古言し陳ししりていね傳しや
 らんかや乃事しと不覚此老の心

いづれに傳へ

たふはししれ句にれし事な乃のついで
傳へりつるを傳へるうしうし一ひ葉集秋
津野のち其けとるてり多ら傳りし
いゆを志るてくもあゆら傳へていふは
にし心勝ゆしきり

十で番

尤 情

新園白

書りたりあられ未だれい今も尚もぬ掉麻其意
た 為教心

のいれあははまのうふまされわけて麻やん
たふらんあやてち未讀し〜向承

兼三合し春日いとよあ〜ん三つハいりこ

負傳〜んと二葉園白申されれハ字信
入る園白ゆ〜にさ〜なりとこを傳もれ

右此作者も氏長者者系御也言不子
細れ押可付勝字捨た〜由太園云ト〜

右言さすよんあ〜り月病乃ありま
理不可我下句ゆりてやひ〜りて〜

〜ん曰す〜やち〜人〜トあむて秋晴イの句
春日〜光〜い〜を〜れ傳り〜

た〜野〜坊〜燈〜を〜し〜れ〜よ〜い〜と〜お〜け〜を
いた〜れ〜傳〜し〜と〜春〜日〜坊〜あ〜と〜何〜る〜所〜い〜

多〜ら〜ち〜ゆ〜子〜了〜何〜に〜を〜心〜た〜り〜傳〜

十五番

九

中納言

持のおんれおん此為さそてあつありとちあつしあつらん

右 勝

行家卿

持乃のあ茶あつね持麻のうらうつ持にまあかひらん

左あつり右有口たれり由右方申と右方

申あつりつゝゝゝ詞傳之殊区と勝上

つゝあつらん

右方申九方ちつちの事ちつちつちつちつち

さ由はつちつちつちつちつちつちつちつちつち

あつりてつちつちつちつちつちつちつちつちつち

く持後と私道内大は百さにあつしつちつち

麻のあつらんとつちつちつちつちつち

十六番

九

勝

具氏朝臣

よのまあみまつちつちつちつちつちつちつちつちつち

ち

新九大臣

あつ後てよのつちつちつちつちつちつちつちつちつち

ちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

つちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

つちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

つちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

つちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

つちつちつちつちつちつちつちつちつちつちつち

よふちをたうれりしはなかりおきんとお家
いふく新古今まいつかり行家はいつい
ふくとお新ちんと被依りしれつうこまうて
し旨なうりま

たすちあはるますうけうけりしきほなる
りしを勝よるを被まきたさうり可
傳老由しき礼傳しきまむ女方う
しを勝と被定傳りま

十九番

九持

長雅卿

しき礼の因えたはよの秋野のしは梅麻の志
たす

雅忠卿

ゆきしゆはたうれりしはなかりおきんとお家
いふく新古今まいつかり行家はいつい
ふくとお新ちんと被依りしれつうこまうて
し旨なうりま
たすちあはるますうけうけりしきほなる
りしを勝よるを被まきたさうり可
傳老由しき礼傳しきまむ女方う
しを勝と被定傳りま
十九番
九持
長雅卿
しき礼の因えたはよの秋野のしは梅麻の志
たす
雅忠卿
ゆきしゆはたうれりしはなかりおきんとお家
いふく新古今まいつかり行家はいつい
ふくとお新ちんと被依りしれつうこまうて
し旨なうりま
たすちあはるますうけうけりしきほなる
りしを勝よるを被まきたさうり可
傳老由しき礼傳しきまむ女方う
しを勝と被定傳りま
十九番
九持
長雅卿
しき礼の因えたはよの秋野のしは梅麻の志
たす
雅忠卿

七番

九持

資平

よのまゝは枝をよむの秋をよきとていふも麻のたぐん

六

公雄卿

きつ秋よあめ野凡とめらめらつゆいし麻のたぐん

七方申え左の無指得失次たよりた

秋よあめぬ枝をよむそのこころとえん侍れ

と左のよにこそとゆつととそ又物くいな

と左のちよりりきりあふよはつゆいし麻のたぐん

とてにこころ首以魚口を合奉りつとつたぐん

此布志おく由る侍也者吾取于披陳之由

申え何れ侍も由る侍しと物くを侍も

七一番

山紅葉

九持

右大臣

お茶をしいたうめてうとまわし侍代しきつゆいし麻のたぐん

六

関白

あまらききよ君あまらしと念山しつとつたぐん

七方子細りなれと本文ら侍申侍も由

有勅向明王好伶不能あふふ紫葉蘭物錦

備林お乃侍れ心のり関白侍ととて

彼侍事になん侍れと本文古集なると

奇りりし事不明不勝暗月ととて

星の跡しつる事侍例をよにあつ侍

礼と侍れは眼方く本志お古今序も

龍田のりみらいふくは津目より錦を
歩らんし吉野と云ふくく人凡の國
よりそをわゆるけりさくく劫りく
かして傳れいつる漢家れくくかして傳
傳くふ傳くくに方合きあたり初をきく
て美と傳くくく実と傳くくく
えをてり傳くくくの採福くくく
これ福くくく思くく求興後風判く言
捕治固極民く改傳くん事ハく其の要
樞といはくくく一君民く情とく礼よりて
みく賢愚く性くくくくくくく
くたり志ありはく今和明王好伶く文被述

我后施徳く仁^北志つくにむくくく
傳けくくく傳くく

左方つねれ事くく右方り傳くと神代
の事くくおひして神代とらぬくく
くくくくく傳くくくく傳くく
くくくくく山表日野月事くく
負傳くくく太固りくくく
物くくくくくく左方義理相叶
美実共く存を画之由右方申之右方明
王好伶く文を難く危け兆れくく
且者基後神ふけ執れくく由神作出右方
首被陳くくく自れ仍くく物く由被定

廿二番

丸持

新関白

おい毎い今とらめり三田し紅紫のりき根まきん
心 行家

し婚方新うのふらき秋をけふまて改めせ
右方ああらにし方物うさりまき丸持ハ
らひめはりまていしのもうのうん
しうりてやまこもふと丸持一物一
うもたんとありしめ又しとらるる
よにあしとちの陳申物一とらるる
まてありしと衣錦袖あまらますあ
まてえ物うやとしう物一とらるる
まてえ物うやとしう物一とらるる

ことなりと 勅定ありしハ侍候三位ナリ

のけりしちうとゆるふ新しなを侍候
今度たにもたし老のまら物うまの
丸持とは勝もやなうとと大関
しと丸にうまらめと 勅定らるる
はまて丸もはらり老しと賞さるる
丸持はらりゆるく物一とけりし
はりになりて指物うまらるる
丸持龍甲し乃錦むてお物ら由若定申

廿三番

丸勝

中納言

し婚方んをこゆらとて改ていらるる
丸持はらりゆるく物一とけりし

犬

為教卿

伊於菀多しきも藤了尼すつのおまのこまの仁宗と
九尋切方おろしくより物してすまの傳な
つと侍後三位下も物しふ少とれ人
こやうにしとさたりや右方と八月言り
るにこやうむ籍とさう物りふおはるを
た方とはちんた方とてとてりるた方
る物ともし物とてと方下は物とて
九勝物りす多
さ山と号す如寛平勅判者法下輝其
後多不難と欲後又右方と下方慈而
為謝後難裁は子細者也

九尋もるのあまを遊去く由吾下為勝

七回番

九勝

女房

かろりいけむといひ其めさんらうてんたの仁宗と

大

為氏卿

えんじあしりたのめいそあは藤下と本は仁宗

た方下はかろりは志くら礼といひさあてん

とて我らとてみる山の忍宗持とてり秀次

さろりかろれと下とと仁宗御吟教也

むん珠をこた方お物とさゆなるお宗と

いふ宗と右方と下は物しやむい徳とるお

ゆえ物と仁宗と下ととさつとあはとを

元寇流の勝は定つゝ象
左方の海軍は續あけ作りしよりは左方
吟不及右方より少はあは

七五番

元

隆親卿

さう乃山千世はあつゝまゝのりいづよしと礼も亦まじん

右

物

前元大臣

虎山おれけぬられしはのちくといは深くおれ
元より二句定家卿よりく由入る民の
中へ右方よりれちくはくはくはくは
あつゝさう乃山千世はあつゝまゝのりいづよしと礼も亦まじん
新古今定家卿よりく由入る民の

一は心おれけぬられしはのちくといは深くおれ
さう乃山千世はあつゝまゝのりいづよしと礼も亦まじん

七六番

元

長雅心

うらほきまらしきまらしき初けるあはれしはのちくといは深くおれ

右

勝

前太政大臣

山倉山いげらうふまゝつゝさう乃山千世はあつゝまゝのりいづよしと礼も亦まじん
元より二句定家卿よりく由入る民の
中へ右方よりれちくはくはくはくは
あつゝさう乃山千世はあつゝまゝのりいづよしと礼も亦まじん
新古今定家卿よりく由入る民の

げらうく作らるる右馬師の事
大なるせり我はよこゆり秋のちから祭文
傳ういに左る礼とらるる方此の事
るれとをゆらるるにこそ右馬師

七七番

九 持

高親

小倉山とつ面をくたさるるまら山の家を
大

大

公雄

らりぬす妹のつらひの心はあまのねては
右馬師の事とらるるにこそ右馬師
由沙はありて物とらるるにこそ右馬師
るまら山とつ面をくたさるるまら山の家を

たれとらるる山の家をくたさるるまら山の家を
はつらつとらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ
山の事とらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ
這回漏脱
物とらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ
かくれとらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ
まらせて孫之欲言者無罪但不可依以若
例に可わ向後之歳れ

たれとらるる山の家をくたさるるまら山の家を
とらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ
勝字志
勝字志とらるるにこそ右馬師の事とらるるにこそ

八番

九 持

資平卿

初宿山木の多戦のりそをんはくしそ志の宿業
大 資季

とくようめをそなりを志のそくのしれ木は宿業を
大ト尤奇お業をそはくよまにそいりみら
るるすお作んと入る民のト作しそ業
業を心おほくよまにそあはに題とそい
そこんとち大なり冠あつてそあふりし
そい又作れよちあも月とそあてあそそ
古今乃秋の部もして入て作れ木向とあり
うはそそ心はくしの下お業は宿業の傳りして
心うつてよまに宿業のりそたそりしは宿業
ト宿りよまに宿業のりそたそりしは宿業

宿業のり大のち志とんそして奇舞又よまに
宿業のり作とそあの部あ合をたち方よ
くおみそを評定して也アまよしそ作
下はれよまに宿業のりそたそりしは宿業
舞なるよまに宿業のりそたそりしは宿業
奇舞はあはしそあはしそあはしそあはし
よみて作れよまに宿業のりそたそりしは宿業
もして陳方さそよまに宿業のりそたそりしは宿業
そ奇舞のりそたそりしは宿業のりそたそりしは宿業
た奇心ほしそあはしそあはしそあはしそあはし
宿業のりそたそりしは宿業のりそたそりしは宿業
宿業のりそたそりしは宿業のりそたそりしは宿業

廿一番 不達意

九 勝 志親

會より勝なりと云ふも好まぬの種よめを

七 行家

いざらめつゝさすてあまきまきと命をいれま
た方北志すく由入る民よりすくは
わらふしよとぬ志よきんといつる古す
思てふあふ方いさくさく志すに何うせん
と勅定さすはさす後をすくはす
早しや古すいさくはとらいつる物
舟車にふはさゆりやふらふ人々をゆり
しけ終といふもすくはすにすくはす

竹の下句の傳よきとふれと左様可勝る由有
勅定古すたふ志のすくはすはやた
方よと物句よいさくはといつるしは我や
たゆりすといつる古すは志乃んゆり
とて九勝と終定

廿二番

九 勝 通茂

たふすもせんかふみさるあつて男をわけては

七 為氏

忠告のすめはすお命を志すは
たふすもせんかふみさるあつて男をわけては
之竹中伝ふるすくはすは

うにちあき末のそとにそとあつたを
てはたれ勝たすもらりてははは
にまらぬてあ勝

廿三番

九

右大臣

いであつてはまはる中のあつたを
あ

勝

融覚

とれつうとせよまられ今そと月あつた
たすいせりてあつたの初はあつた
入る民アつた中初とてさうあつた
たすはそはあつた古今初はあつた
初はあつたはあつたはあつたはあつた

初はあつたはあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつたはあつた
勝字あつたはあつたはあつた

たすはあつたはあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつたはあつた

廿四番

九

前白

あつたはあつたはあつたはあつたはあつた

七

前大臣

あつたはあつたはあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつたはあつたはあつた

たつし此にゆふかとなんたのをさすとも
あぬありやと信じてくあはふ方ありと
ま物定傳しと大方信不承信し傳しや
尤もてとさうと息号と関てやさしく傳しや
勝し信定しと伴古す後日彼引勘し
ま子我集宗並言よりありなりと書
氣又傳し

廿五番

九 持

具氏

ふふふふのゆくもあはれいさすといふもあはれなるん

大

関白

くらそん徳のり未言まぬやあはれなりとせしは
ま乃松くあつらぬいはとあり大の徳を
ゆゑ念あやめさるりおさしとやういれ
もたしとくふれしてゆれをよん物
むらしとたん止の申し

廿六番

九 持

女房

いふよふらりしあはれ徳をさす
飛忠

中しよの巻もつしお坂のいゝ我方のせむらびの
右方申えたる七車ゆゑに九慮及る
ふふふなりと面よりあしゆらうしを不
耳ん人もやゆらんうしけを方の新勅標
定家つ標入してゆれをささみんて未だ
らう車とゆらうしやう車まてうしつ
としやゆらうしやう車まてうしつ
上科乃方とをさみんてゆらうしやう車
おる思ふとゆらうしやう車まてうしつ
らう車とゆらうしやう車まてうしつ
こゆはゆらうしやう車まてうしつ

たうゆらうしやう車まてうしつ

ゆらうしやう車まてうしつ
ゆらうしやう車まてうしつ
ゆらうしやう車まてうしつ

廿七巻

九持

中納言

人とゆらうしやう車まてうしつ
た

右大臣

まの月乃こもゆらうしやう車まてうしつ
右方人の九持と媛様なりと
右方人の九持と媛様なりと
右方人の九持と媛様なりと
右方人の九持と媛様なりと
右方人の九持と媛様なりと

ありしと仰しと大月...
うろ... おも... 禮定

廿八番

左

長雅

山よりのおおのる... 礼...

大勝

資...

あはれやのゆが... 大勝... 礼... 大勝... 礼... 大勝... 礼...

大勝... 礼... 大勝... 礼... 大勝... 礼... 大勝... 礼...

廿九番

大勝

隆親

大勝... 隆親... 大勝... 隆親...

左方右方文章無難...
 字術尽て受けたるにや...
 右方と傳へて...
 一仍左の勝とて...
 さ方よりいば...
 かりうれを...
 けりしけり...
 と左の側...
 右勝

四十番

左勝

資平卿

此を宗とす...
 右勝

此を宗とす...
 右勝...
 右のし...
 とめく...
 右勝と被定...

四十番 絶意

九持

資平に

いすのゆきりふんたの燈の着るはむのうま
あ

面白

ほねやまのうまのむらりけのうま
じうのうのゆきりふんたの着るはむのうま
あらとらりきりきりきりきりきりきり
あつまつりあつまつりあつまつりあつ
まつりあつまつりあつまつりあつまつり
まつりあつまつりあつまつりあつまつり
まつりあつまつりあつまつりあつまつり

軍二部

九持

隆親卿

うまのうまのうまのうまのうまのうま
あ

あつまつり

七

新九大臣

あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり

あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり
あつまつりあつまつりあつまつりあつまつり

九

前園白

二つをせしむるまじき礼法はこれにあらざらん

大 勝

資季

古明に別まじきでつれづれのまじらぬられ
古言申ふたすの法もははるはらまされの
しつしつはらまはるや古言古言もは
はらまはるつてしつしつはらまされ
我余これともある殊異く由古言はた
り勝字をばはくつてふり被信下は
此作者く由被信古言く由古言はた
羽長若福吉夜多まはるこれ古言感
ふりはらた

九はすはるまじき礼法はこれにあらざらん
二つをせしむるまじき礼法はこれにあらざらん
古言申ふたすの法もははるはらまされの
しつしつはらまはるや古言古言もは
はらまはるつてしつしつはらまされ
我余これともある殊異く由古言はた
り勝字をばはくつてふり被信下は
此作者く由被信古言く由古言はた
羽長若福吉夜多まはるこれ古言感
ふりはらた

軍司

大 勝

右大臣

礼乃曉はるるは物といひしつしつはらまされの
古言申ふたすの法もははるはらまされの
しつしつはらまはるや古言古言もは
はらまはるつてしつしつはらまされ
我余これともある殊異く由古言はた
り勝字をばはくつてふり被信下は
此作者く由被信古言く由古言はた
羽長若福吉夜多まはるこれ古言感
ふりはらた

左方の御前様へ申して義理をいさなす
ことによりしき事とあらはして侍也
右方へ申すに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり
し侍りしに侍りしと大いなり

四十五番

九 持

中納言

今も又たの火いんのつりあうまじくお袖のりるん
為氏に

九

とるししむ物もあはれのみさしつらとあまねし
左方へ詠傳あし由各りし侍りしに侍りし
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり

四十六番

九 持

長雅卿

左方の御前様へ申すに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり
侍りしに侍りしと大いなり

九

行家に

大奇なりき力よのふゆつら終のちとが
乃撰集よ志らぬりまゐの先くたれは
とどきて終ふられしり男にとゆれとそ
といふ入道相国よりいささか守らる
世のういふ細よをいふと前太政大臣
しき禮よ志らぬとた方乃初句よあし
りし勝ありとさといふとた方にさし
人作りしふかまねあはれらりし
りしと初よあはれに下句又傳にあし
まといふた方に物よしとさしして負
ふ七たふあよとた方乃初句よとこれと
は已むと申のまゝしてさし物よしと
た

た方乃初句よ

た方乃初句よ
た方乃初句よ
た方乃初句よ
た方乃初句よ
た方乃初句よ

四十七番

た

通成

とある高しきに神のた物よしと
た 勝 前太政大臣

あはれとしかかあむしとあむしとあむしと
た方乃初句よ下句よあはれとあむしと
うハ流といふとあむしとあむしと
いふとあむしとあむしとあむしと

うさやとりちきにはいりて
たしこやとたきりしつとて
ちかんとけり花なりしと
たこれとせし礼をぬぬめ
されては侍しとたは
侍よりちをれ多ふらし
侍しとたは
をけりぬじと礼水とら
しとたは
被定

四十八番

左 勝

右 親

うさやとりちきにはいりて
たしこやとたきりしつとて
ちかんとけり花なりしと
たこれとせし礼をぬぬめ
されては侍しとたは
侍よりちをれ多ふらし
侍しとたは
をけりぬじと礼水とら
しとたは
被定

右

雅忠卿

うさやとりちきにはいりて
たしこやとたきりしつとて
ちかんとけり花なりしと
たこれとせし礼をぬぬめ
されては侍しとたは
侍よりちをれ多ふらし
侍しとたは
をけりぬじと礼水とら
しとたは
被定

たきりしつとて
ちかんとけり花なりしと
たこれとせし礼をぬぬめ
されては侍しとたは
侍よりちをれ多ふらし
侍しとたは
をけりぬじと礼水とら
しとたは
被定

四十九番

左 持

右 序

うさやとりちきにはいりて
たしこやとたきりしつとて
ちかんとけり花なりしと
たこれとせし礼をぬぬめ
されては侍しとたは
侍よりちをれ多ふらし
侍しとたは
をけりぬじと礼水とら
しとたは
被定

右

融覚

とんえいひあきくはけら又とくあきくはけら
とれみおし乃ふつちわやととけりわと
みれしきもちる物まじたありさくん
かつしくけつつしおしーくささあさ
人しちとちとさるたよほえん付り
しは吉三よしも素性のおとまは
しくらしきとらさししけりなをに
P物や物よさうささけりしとをれ
た乃おし乃物しかりぬらいたさか
さまとてりひすやちまう作りうん
か！
は物よあしの中るさくさあぬま

いさくさけらさしとつるぬれさし乃あ
るさきたさし物字とばらさく作り
しやん

五十番

尼勝

具氏羽長

三月乃るさくさくたさよ家中へはらさくさく

大

公雄

たださしとれしあしぬはりさのまらぬは
それいさしなつたのけよむさしとそ
勝作りにはよ

あつてさしとつとつたさくた中に
ありしと勝と被定

此哥合先年書寫之
後孫教年
以友因光院殿自筆
本口述付也
但伴本又少之
院方名富事又
任本事

名	號
83	五
2	甲
行	文
堂	

110X
652

此一冊頓業卿真筆也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light purple or grey ink.



